

新・高松市男女共同参画センター開館記念&2016 男女共同参画市民フェスティバル

ひと・まち・未来を輝かそう！！

～みんな参画 みんないきいき～

日時：平成28年12月4日（日）13：50～15：22

場所：たかまつミライエ 1階 多目的室

主催：新・高松市男女共同参画センター開館記念&2016 男女共同参画市民フェスティバル実行委員会、高松市

後援：朝日新聞高松総局・RSK 山陽放送・RNC 西日本放送・FM 香川・FM815・OHK 岡山放送・KSB 瀬戸内海放送・産経新聞高松支局・四国新聞社・CMS ケーブルメディア四国・高松リビング新聞社・TSC テレビせとうち・日本経済新聞高松支局・毎日新聞高松支局・読売新聞高松総局

内容：

13:30～13:50 開会行事

○ごあいさつ 実行委員長 野田法子

高松市長 大西秀人

○ご祝辞 高松市議会議長 岡下勝彦



↑ フェスティバルのチラシより

13:50～15:19 記念講演会「女性が活躍出来る社会を目指して」

○講師：キャスター 国谷裕子（くにや ひろこ）

○はじめに

- ・日本での教育は、小学校の数年間だけで、海外での生活。そんな私がNHKのキャスターを務めるようになった。偶然をチャンスに。
- ・当時の日本は、外国の大学を卒業した人に対して就職のチャンスは少なく、面接もしてもらえず、英語の教師をしていました。

◇外資系化粧品メーカーで

- ・ようやく外資系の化粧品メーカーに採用され、化粧石鹸のマーケティング。アメリカではスーパーで「3個いくらで安売り」するのが普通でしたが、日本では、贈答品としてお歳暮やお中元、挨拶に使うのが化粧石鹸。
- ・アメリカの大きな石鹸を、小さく、丸くし、きれいな包み紙でくるみ、しきりのある箱に入れ、デパートで売る、マーケティングをするアシスタントでした。
- ・何の経験もない私に、チャレンジングな仕事をさせてくれました。CMの作成や梱包をデザインするなど、いろいろなことをさせてくれた。
- ・でも、石鹸の販売にやり甲斐を感じられず、こんなチャレンジングな仕事をさせてくれた会社を1年であっさりやめました。

◇自分探して

- ・バックパッカーで、一人旅で世界を回り、自分探しをしました。
- ・しかし、自分を見つけることが出来たことと言えば、「一人旅が嫌い」、「こんな面倒なことは好きではない」ということだけ。

◇NHKとの出会い 1981年

- ・NHKの特派員の方から、電話。「英語が出来る娘さんがいましたよね。NHKで、英語でもニ

ニュースを流す番組をするので、面接を受けに来ませんか」。

- ・これが、私とNHKの出会いでした。夜7時のニュース。
- ・その時には海外の生活が長かったので、日本語は流暢ではなく、同時通訳の学校に通い日本語の勉強をしました。
- ・また、NHKが海外で取材をするときの海外のリサーチをしたりと、少しずつ仕事の幅を広げ、日本のことを少しずつ勉強しました。
- ・5年ほどし、1985年結婚し、パートナーはワシントンにいたので、ワシントンに行き、何もせず「これをしたい」ということなく、過ごしていました。

◇ニューヨークでのテレビの仕事 1987年

- ・「国谷さん、テレビに出ませんか」と。経験も無く、無理ですとの私の答えに、「大丈夫、誰も見てないから。これから始める衛星放送の試験放送での、朝の3時と5時の放送だから。誰もまだアンテナ持っていないから、見ている人がいないから」と。
- ・やってみると、プレッシャーも感じず、ニューヨークのTVスタジオは毎日決まったパターンで天気やニュースを流すだけ。誰も見ていませんでした。
- ・唯一、私の番組を見て訪ねてきたのは立花隆さん。立花さんは、「原稿を書き終えてテレビをつけると、君が出ているんだ」と。

◇地上波での生放送のキャスターの仕事 1988年「ニュース・トゥデー」

- ・半年ほどしたら「TVに出ませんか」と。ニューヨークのスタジオの家庭的な雰囲気と違い、みんなテンパっていて、間違っではいけないとピリピリしている。NC9が終わって、7人のキャスターが政治や経済を語り、私は「国際」の担当。
- ・若いときは、何でも引き受けてしまう、判断力がないと言うか・・・
- ・臨機応変な生放送の対応が出来ず、急なニュースが入ると6分の原稿を3分間にその場で縮めるとか、質問を投げかけられても返答が出来ない、・・・
- ・自信の無いキャスターは、視聴者の方にはわかり、クレームがくる。
- ・キャスターとは何をやる人なのか、そのことすら自分にはわかっていないことに気がつき、毎日泣いて帰る生活。
- ・テレビで顔が知れているので、顔を上げて外を歩けない、毎日うなだれて生活をしていました。
- ・そんな私が仕事を続けられるわけもなく、半年でキャスターを降ろされ、リポーターとして外回りに。
- ・悔しい、自分をがっかりさせる結果となり、今でも辛い思いがよみがえってくる。

○その経験で自分が変わった

- ・それまでは、言われたからキャスターをしていた。テレビに出ることを目標にもしていなかったし、キャスターになりたかったわけでもない。
- ・キャスターになりたいと思うようにならないと、・・・
- ・自分になりたい自分が見えた。

○再度のチャンス BS放送 1989年「ワールドニュース」

- ・期待を裏切るようなキャスターに、報道番組のスタッフは次の仕事を与えません。
- ・しかし、私には誰も見ていない衛星放送がありました。1989年、やっと、本放送をするタイミングで、NHKは再度のチャンスを与えてくれました。
- ・ベルリンの壁の崩壊、ソビエト連邦が崩壊、東西冷戦が終わり、歴史の教科書が塗り替えられ

ることが起き、そのような時代に世界のニュースを伝えることを売りにしていたBS放送に私はいた。

- ・BS放送にはスタッフが少なく、ありとあらゆる仕事が回ってきました。
- ・「国谷さん、今日は10時に始まるけれど、いつ終わるかわからない。とにかく長くがんばってね」と。アメリカやドイツ、ソ連の専門家がスタジオに来て、臨機応変に会話をしたり、世界のシンクタンクに質問をしたりと、喉から手がでるほど欲しかった生放送での経験をすることが出来た。
- ・そのころの睡眠時間は3時間、長くても5時間。それでも自分に与えられたチャンスをやり続けた。3年間続けた。
- ・NHKから新しい報道番組「クローズアップ現代」をやりませんかとの声かけ。 23年間やれることが出来ました。
- ・衛星放送や時代の変化というタイミングが、私にチャンスを与えてくれました。

○クローズアップ現代 1993年「クローズアップ現代」

- ・テーマに制約を設けない番組。経済、政治、歌手、スポーツ、何でもやります。
- ・平成5年、バブルが崩壊し、2年連続して地価が下落した年。バブルの痛みが本格化した年。リストラの年・・・。
- ・平均年間所得は200万円低下し、サラリーマンが安定した職ではなくなり、日本はどうすればイノベーション、技術革新が生まれ、産業が生まれるかと考えてきた。
- ・その当時の女性の正規雇用は7割。なのに、今は4割と女性の置かれている立場は不安定なものとなっている。

○勇気を与えてくれる一本の電話

- ・経産省から、APEC「女性と経済」のセッションの司会（モデレータ）の依頼の電話。
- ・「女性が活躍している企業の方がイノベーションが生まれるか」、「女性が働きやすい職場は、男性にとっても女性にとっても働きやすい職場が生まれるか」 そんな議論をしている。

◇その当時のクローズアップ現代は

- ・目から鱗が何枚も落ちた。「クローズアップ現代」は、なぜこのようなムーブメントが世界で起きていることに気づけていなかったのか、悩みました。
- ・NHKの「クローズアップ現代」や報道番組には、女性の編集局長、デスク、ディレクターはいません。ディレクターには女性もいますが、結婚、出産を契機に辞めていきます。女性は、提案する立場までにはいませんでした。

○私は

- ・私がキャスターとして再び認められるカリベンジ、自分に復讐しよう番組に取り組んでいたもので、男性と同じように朝の早い打ち合わせ、夜遅い打ち合わせ、土日の打ち合わせも断らない。男性と同じように働いていて、女性たちの立場に立った視点が無かったと反省しました。
- ・それからは、一歩外に出てみて、育児と仕事を両立するにはどうしたらいいか、会社で女性が活躍するにはどうしたらいいかの議論をしている企業を取材し、海外に行き、女性活躍の最前線を学び、国内で女性の先進的な人たちとのネットワークを作り、番組で提案するようになっていきました。

○NHKにも、社会にも変化が

- ・すると、NHKの中にも変化が起きてきました。ワークライフバランス推進事務局が出来ました。
- ・社会も変化が起き、女性活躍推進法も今年4月に施行。従業員301人以上の企業は、目標（数値目標など）を設定し、公表し、目標達成状況を検証する。
- ・99.5%の企業が計画を策定、公表し、取り組み始めている。
- ・男性の家事、育児に取り組む時間の閣議決定がされている。今は54分、これを150分にする。
- ・日本はダイバーシティ、アクセラは踏んでいるが、**世界と比べると「男女平等指数」、先進国144ヶ国中 94位、昨年は101位、今年は111位。世界は、日本以上にアクセラを踏んでいるということ。**
- ・クローズアップ現代を終わってから、よく男女共同参画の行事にお声かけをいただく。
- ・地方の中核都市こそ、男女行動参画を推進することが重要です。地方経済に重要です。

○日本はまだまだ意識改革が進んでおらず、

- ・育児制度、短時間勤務制度、様々な制度は充実してきたが、**女性と男性が平等であるという意識改革はまだまだ進んでいない。**

◇アンケート調査 29～49歳の5,000人の女性に対するキャリアに関する調査。

- ・卒業時に働く意欲が高い女性ほど、離職をしているという結果。企業が、女性に男性と同じようにやりがいを感じられる仕事を与えていないから。高学歴の女性たち、キャリア形成の問題が、**結婚や出産の両立をどう図るかという以前に、それにいたるまでの「人材育成のあり方」に問題があることがわかった。**
- ・仕事と家庭の両立支援をどうするかばかりに注目していたが、男性にばかり重要でチャレンジングな仕事を与えられ、女性には与えられず。様々な決定権を持つポストは男性ばかり。育児休暇から復職した女性の処遇は固定され、上を目指すことを諦めている。
- ・NHKで育児休業明けの女性と話しをすることがあり、「最近どう」と聞くと、「貢献することが出来ず、すみません」と涙を流す。自分たちは活躍したいけれど、職場ではお荷物とされているのかもしれない。家に帰っても、家事も子育ても中途半端と罪悪感を感じる。
- ・自己責任でもないのに、自分の方からカラに女性が閉じこもり、小さくなっている。

○FacebookのCOO サンドバークさん

- ・重要なプロジェクトの決定が男性だけの飲み会や集まりで決まっている。その場に参加させてもらえていない女性には、仕事のノウハウや重要な人脈が奪われている。 → ボーイズクラブに入れなかった女性たちは昇進のコースに乗れない
- ・日本企業の女性役員比率 この4年間で倍になりました。1.7%が3.4%です。アメリカは17% ヨーロッパでは3割を越え4割を目指している。
- ・しかし、アメリカではこの17%がこの10年間動いていない。**ガラスの天井を、一生懸命打ち破ろうと苦労してきた、家庭と仕事の両立のために苦労してきた。そんな母親の姿を見ている女性たちは上を目指さないのではないか。**

○女性自らの意識

- ・アメリカでさえ、重要なプロジェクトへの参加に女性は手を挙げない、会議の席も前列には座りたがらない、嫌われることを避ける。
- ・女性がチャレンジ出来るような雰囲気を作らないと、女性は手を挙げない。女性は自分の能力

を男性よりも低くみる、自己肯定感が低い傾向がある。そんな女性たちの傾向を理解した上で、どう育てていくか。

- ・もちろん、そんなことを気にしなくても成長する女性はいるが、自己肯定感の低い傾向にある女性をどう育てるかは重要。
- ・男性社員の94%は入社当時から管理職を目指したいと答える。女性は58%。「仕事と家庭の両立の難しさ」、「自分には能力が無い」、「責任が重い」ことを理由にあげる。

○活躍している女性の執行役員の話

- ・うちの会社では、女性は賢いイルカだと思っている。しかし、サメやワニたち(職場の男性たち)がたくさんいるところに、少数のイルカ(女性)を入れると恐怖でつぶれてしまう。早い段階で成功体験を積み、それからワニやサメのいるところに放します。
- ・自己肯定感や自信が少ないかもしれないが、**女性たちが声を上げ、女性たちが繋がって行って欲しい。**
- ・NHKでも推進事務局が出来てから女性たちの「ドルフィンクラブ」が出きた。部署部署の違いや共通する部分、ノウハウを共有し、状況を改善できる、そんなことが大事。
- ・涙を流していた女性が、「夕方に開かれていた会議を、朝やお昼に開いてもらえると、幼稚園のお迎えと両立出来るんです」と提案したら、「いいよ」と。男性も、「夜、早く帰れる」と喜ばれた。 → 言うてみるものです
- ・声を上げる女性をめんどくさいと思わないでください。
- ・**育児に参加しない、家事に参加しない、そんな方が会社のルールを決めているのです。**

○会社全体に

- ・トップの意識が変わることが大事。
- ・しかし、人事権や決定権を持っている男性の意識が変わらないといけない。
- ・いくら上から水を流してもしみこんでいかないので、このような男性を「粘土層」と呼んでいます。この粘土層に風穴をあける必要があります
- ・ボーイズクラブに参加している男性が、「早く帰りたいのです、育児のために」と言いたいのに、「目をかけているのに君は家の方が大切なのか」との男性(上司)がいる。男性自身こそ声を上げにくく、声を上げている男性を誉めてあげてください。

○このような取組がなぜ地方には大切なのか

- ・都会ではいろいろな取組がホームページにもあげられ、取り組まれている。
- ・しかし、中小企業では女性の比率が低く、片働き世代よりも共働き世代が増えている。男性の賃金が下がっているため男性は長時間労働をせざるを得ず、女性はそれを補うために働かざるを得ず、やりたい仕事をしているわけではない。
- ・地方では2世代、3世代の家庭が多く、「問題は世代間にある」とよく聞く。夫が妻を助けて家事や育児をしようとする、お母さんやお父さんが「するな」と止める。
- ・**能力のある女性たちがのびのびと働くことへの課題には、男女間の性別役割意識だけでなく、世代間の性別役割意識の問題がある。**
- ・復帰研修：母親だけが呼ばれることが多いが、夫との研修、親御さんとの研修を行い、性別分担意識の改革が重要。

○Uターン率

- ・男性に比べて女子たちが地域に戻ってこない傾向がある。
- ・男女平等の比率が低い地域ほど、都会への女性流出が多い傾向があり、地域の存続、維持に大問題。

○先進的な企業の例 資生堂

- ・昨年、「資生堂ショック」というのがありました。
- ・女性管理職27% 育児休業の取得者、短時間勤務の女性も多い。
- ・そんな資生堂で、夜間勤務、土日勤務を求めました。
- ・何を求めているのか、人事の方に取材に行きました。
- ・一人一人丁寧にヒアリングをした。夜間勤務をすると、子供たちを見てくれる人はいますか、介護が必要な人がいますか、・・・
- ・化粧品が一番売れる時間帯はいつですか？ 土日、夜間が一番売れて、お客様と接することが出来る時間帯に時短で休んでいては、販売のノウハウを経験できない。 → キャリア形成のためにちょっと背中を押しました。
- ・すると、「初めて夫と、親たちと、自分のキャリア形成について考え、話しをしました」と。
- ・週〇回。夫やご両親に手助けをしてもらってもキャリア形成をしたいのか、自分はどうなりたいたいのかを考えた。断ってもペナルティはない。
- ・自分のキャリア形成を考える機会を会社が作ってくれました。

○どこで働きたいのかを決めるうえで

- ・仕事を、会社を選ぶにあたって、真剣に、キャリア形成、育児や家事とのワークバランス、ロールモデルはあるのか、などを気にする方へ向かっている。
- ・このことを企業の経営陣は忘れないでください。

○女性は素晴らしい人材

- ・女性たちで発想するアイデアは捨てたものではない。
- ・日経 WOMAN「子育て応援ビジネス賞」 サンクラッド社長の馬場さん 3人の子供のいるシングルマザー 電気を止められるような生活で、制服が破れても新しい制服を買うお金がなかった。自分と同じような人がいるだろうと、制服のリサイクルを始めた人。
- ・リサイクルのために制服の名前の刺繍をほどいていたら、お年寄りが「私、手伝うよ」と。
- ・制服を自宅で洗濯していて、自分の子供が知的障害を持っていて、「洗濯なら知的障害の子供たちも出来るかもしれない」と仕事が生まれて。
- ・女性たちは自分たちが困っていること、地域の暗い事柄に目を向け、柔軟に人脈をつなぎ、仕事や障害者施設でプロジェクトが出来たり。マスコミで取り上げられると全国から問い合わせがきて、今では全国十数カ所で制服のリサイクル、ムーブメントが起きている。
- ・女性たちの気づきは大事、いろいろな企業が生まれている。

◇理系女子(りけじょ)

- ・未来食堂 フードロスゼロにしようとする食堂。日本は、世界3位の食べられる物を捨てている国。食堂を手伝ってくれた人は、1食食べていいというウィン・ウインの関係。

◇29歳の文系の女性

- ・シリコンバレーでバーチャルな物作り。

- ・こんな物があればいいなあとの思いから製品企画

◇「君の名は。」の宣伝プロデュースの はざま

- ・文系、理系なんてしぱり無く、どんどんイノベティブ、斬新なアイデアで起業したり、古くからの会社で新しいビジネスを生み出し、昇進していく女性たちが生まれて欲しい。

○最後に

- ・いろんなチャンスがあって、応援してあげて欲しいし、女性たちは声を上げて行って欲しいし、そんな女性をうるさいと思わないで欲しいし、自己肯定感が低いけれどチャレンジして行って欲しいし、それが地方にとって大事だと思います。

15:10~15:19 質疑

女性Q：国谷さんご自身の挫折のことも踏まえながら、具体的な話しをありがとうございました。

「クローズアップ現代」のような番組はとても大事。「クローズアップ現代2」のような番組がリクエストすれば出来るのか、今後国谷さんはどのような取組を進められているのか。

国谷A：多くの方が、私はNHKの社員だと思われるが、1年ごとの契約社員で、不安定雇用の最たるもの。「クローズアップ現代2 プラス」 私が提案するものでも、2も始まったばかりですので、わかりません。

- ・私がNHKの社員でなかったから、NHKの人材育成ラインと違う流れで自分を見てくれたのが良かったのかと思う。
- ・これからについては、1987年から29年間生放送、休むことが出来ない、毎日勉強、週末は資料を読んだの自転車操業。それが終わってこれまでを振り返る時間をいただいている。女性活躍については反省がある。「ウーマノミクス」(ウーマン + エコノミクスの造語 女性の活躍によって経済を活性化すること)ができたのは1997年。それを知ったのもAPEC キャッシー松井 「女性が活躍する社会の方が経済成長率も出生率も高い」そういうことを知っていれば、97年、銀行がつぶれていったそのときに言葉が出来ていた。その時に知っていれば、出来たのではと思う。
- ・大事だと思うことは、引き続き勉強し、取材し、アップデートし、手法はわかりませんが、「こうなったらいいのになあ」ということをいろいろな方に伝えていきたい。

男性Q：先日、NHK放送部長に「キャスターとして一番大切な物は何か」と聞いた。「伝える力」との答えだったが、個性をださんといかんやないかと思う。最近のキャスターは個性が無い。岡谷さんは苦勞してきたことに敬意を表する。

- ・(市長に代わって)市民としての意見、地域包括ケアをいかに進めるかによって、女性参画、世代間交流が進む。それなくして地域創世も無い。

15:19~15:22 お礼の言葉 副実行委員長 みやもとひろこ

- ・記念講演会にどなたを呼ぼうかと聞いたところ、国谷さんの声が一番多かった。忙しい国谷さん、高松に来てもらえてありがたかった。
- ・いろいろな話し 様々な仕事の中での課題、男女共同参画をどう実現していくか、様々な会社、市民、家庭の示唆をいただいた。
- ・香川の馬場さんの話。高松市民とそして嬉しい。
- ・女性が声を上げる、繋がることをご提案いただきました。
- ・地方は少し遅れているということは、私たちの活躍の場が大きいということ。それぞれのとこ

ろ、それぞれの位置で取り組み、めげることなく、しなやかに、したたかに、男女共同参画を進めていきたい。

—以上—

新・高松市男女共同参画センター開館記念
& 2016男女共同参画市民フェスティバル

男女共同参画宣言都市・高松

ひと・まち・未来を輝かそう!!

～みんな参画 みんないきいき～

11月26(土)～12月4日(日) ※29日(火)は休館
男女がお互いに認め合い、個性と能力を発揮し、共に輝くまちづくりに向けて、みんなが集い、語り合い、交流するために、さまざまな催しを行います。皆さんの参加をお待ちしています。

記念講演会 12月4日(日)

場所：たかまつミライエ（高松市こども未来館）1階多目的室
◆開会行事 / 13:30～13:50 ◆講演会 / 13:50～15:15

講師 **国谷 裕子**さん(キャスター)

演題 **「女性が活躍できる社会を目指して」**

●定員 220人 ●入場料:無料 ●手話通訳あり ●託児あり(要予約)

●申し込み方法 / 往復ハガキに限ります。ハガキに郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・電話番号を明記の上、同実行委員会までご応募ください。
※応募資格は、高校生(在学・在勤)・在学の方 ※児童を超える場合は抽選となります。後日、結果をハガキでお知らせします。
※ご記入いただいた個人情報は、ハガキの送付のために使用することはありません。

●申し込み先 / 〒760-0020 高松市錦町1-20-11 高松市男女共同参画センター内 市民フェスティバル実行委員会
●申し込み締切 / 11月12日(土) [当日消印有効]

プロフィール

大阪府生まれ。高校時代までアメリカ、香港、日本で生活。79年、米のブラウン大学卒業(専攻は国際関係および国際経済)。81年、NHK 17時のニュース「英語放送の翻訳・アナウンスを担当。88年、NHKの「ニュース・トゥデイ」国際担当キャスター。89年、NHK衛星放送「ワールドニュース」キャスター。93年から2016年3月までの23年間、NHK総合テレビの「クローズアップ現代」のキャスターを担当。この間、特別番組や「NHKスペシャル」等の報道番組のキャスターも務める。2010年2月から14年2月まで新日本女子2世記念委員会 委員。2016年4月から東京芸術大学 理事、ティラー・アンダーソン記念基金 理事、米日カウンシル評議員会 評議員。1998年放送ウーマン賞、02年第50回菊池賞、11年日本記者クラブ賞、16年ギラクシー賞特別賞。